第１回自治体セミナー
令和７年７月３０日(水)

神奈川県 相模原市

オーガニックビレッジの取組について

相模原市環境経済局経済部
農政課
山田　直明

有機農業推進の現状

目標年度：令和９年度（有機農業実施計画の最終年度）

成果目標と実績値：

（１）有機農業の面積拡大(いも類、露地野菜)

目標　6.3ha（令和９年度）

スタート時　5.3ha（令和３年度）→6.5ha （令和７年３月末時点）

（２）有機農業で生産された農産物等の販売数量の増加
(いも類、露地野菜)

目標　59.0ｔ（令和９年度）

スタート時　57.0ｔ（令和３年度）→57.0ｔ（令和６年３月末時点）

※6年度調査中

（３）有機農業者数　３人以上の増

目標　13人（令和９年度）

スタート時　10人（令和３年度）　→　13人 （令和７年３月末時点）

事業を行う狙い

有機農業の推進

- 農産物の付加価値が高まることによる**農業者の所得向上**
- 有機指向が強い傾向にある若い世代の**新規就農者の増加**
- 地産地消有機農産物に対するニーズの把握や**農商工連携の促進**
- 農業者の**環境に対する意識の醸成**

市総合計画や、都市農業振興ビジョン(部門別計画）に掲げる

施策 29 **持続可能な力強い農業の確立**

施策 34 **環境を守る体制の充実**

(参考)SDGs関連ゴール

2 飢餓をゼロに

- 持続可能な農業システムは、持続可能な食料生産を促進する。

※「有機農業をめぐる事情」農林水産省（令和６年５月）から

生産段階の取組

令和６年度

○第１回技術講習会＋圃場視察会

日にち：令和６年９月１２日（木）
テーマ：太陽熱土壌消毒と『陽熱プラス』を学ぶ
講師等：・農研機構 農業環境研究部門 土壌資源・管理グループ 上級研究員 井原　啓貴氏
・㈱農楽 千葉　康伸氏
・実践農業者 吉見　敦司氏、春田　耕平氏
参加者：１９名

○第２回技術講習会＋圃場視察会

日にち：令和６年１０月３０日（水）
テーマ：異常気象に負けない オーガニックな栽培技術を学ぶ
講師等：・伝統農法文化研究所 農学博士 木嶋　利男氏
・㈱農楽 千葉　康伸氏
参加者：５３名

生産段階の取組

令和６年度

○第３回技術講習会＋圃場視察会

日にち：令和７年１月１５日（水）
テーマ：だれでも出来る！畑の地力窒素を測ってみよう
講師等：・神奈川県農業技術センター北相地区事務所
技師 住本　和也氏
・実践農家 吉見　敦司氏、春田　耕平氏
参加者：１７名

○第４回技術講習会＋圃場視察会

日にち：令和７年２月１８日（火）
テーマ：これからの環境にやさしい地場産農産物の売り方を考えよう～認証制度を学び、地産地消マルシェ企画を話し合う～
講師等：・㈱マイファーム 新規事業開発室長　高橋　勉氏
・㈱農楽 千葉　康伸氏
・実践農家 吉見　敦司氏、春田　耕平氏
参加者：１２名

消費等の取組

・学校給食での試行的な活用

市内で化学肥料や農薬を使用せずに稲作に取り組む生産者のお米を、学校給食で提供

令和５年度

日にち：令和５年１２月８日（金）
対　象：中学校給食（デリバリー方式）を注文した生徒等に提供（6，０８７人）
使用量：７７０kg
※うち614.25kgは、国交付金を活用して買取（8,140円/10kg）
※残りの155.75kgは、給食費にて対応

令和６年度

日にち：令和６年１２月３日（火）～１７日（火）
対　象：小学校１３校＋１センター（９６２５人）
使用量：７７０kg

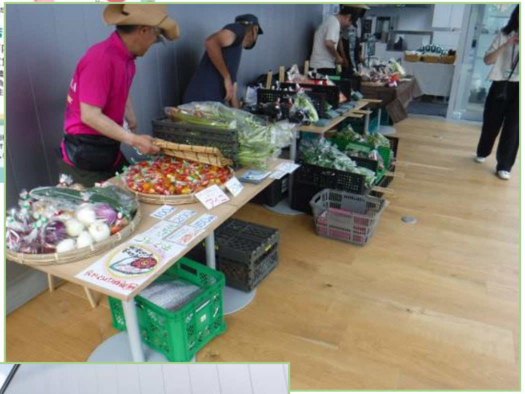
消費等の取組

令和７年度

- **マルシェの開催**

有機農業や特別栽培など、環境負荷低減に取り組む農業の魅力を広く発信し、市内産農産物等の販路開拓や消費者の理解醸成を図ることを目的とした、マルシェを開催

日にち：令和７年７月６日（日）
　　　　令和７年７月２７日（日）
　　　　両日とも１０～１３時
店舗数：各回７ブース



今後の展望

- 有機栽培技術の更なる向上と共有化

  ⇒　**技術勉強会・実証圃場**

- 出口戦略の確立（市内販路の開拓）
- 消費者（市民）理解の醸成

  ⇒　**定期的な売り場づくり**

  　　有機JAS認定取得に向けた取り組み

ご清聴ありがとうございました

参考：相模原市の概要

相模原市の位置

相模原市の概要

- **面　積**　　**328.91 ㎢**

宅　地	48.41 ㎢	**農　地**	**19.16 ㎢**	山　林	202.87 ㎢
原　野	4.13 ㎢	雑種地	18.26 ㎢	その他	36.08 ㎢

令和6年1月1日現在

- **人　口**　　**723,414人**
- **世帯数**　　**348,648世帯**

令和6年12月1日現在

- **農家戸数**　**2,033戸**

自給的農家	1,623戸	（79.8％）
販売農家	**410戸**	**（20.2％）**

(経営耕地面積が３０アール(3,000㎡)以上　又は農産物販売金額が５０万円以上の農家)

出典：2020年農林業センサス

作付品目農家数

- **野菜作付上位１０品目**

※農業経営体のみ

	品目	農家数
1	だいこん	153
2	里芋	124
3	はくさい	123
4	ブロッコリー	112
5	にんじん	107

	品目	農家数
6	ほうれんそう	106
〃	きゅうり	106
8	なす	99
〃	キャベツ	99
10	ねぎ	95

出典： 2020年農林業センサス

きっかけ・背景①

- **化学農薬や化学肥料に頼らずに取り組む農業者**

  市内には化学農薬や化学肥料に頼らずに農作物を作っている方々がおり、自然に備わる土や生き物の力を活かして、様々な考え方、方法、組み合わせにより農作物の栽培に取り組んでいる。

- **さがみサスティナブルコミュニティ**

  地域農業の持続可能な仕組みづくりを目指し、有機農業について学び合い、取り組むために組織された団体。相模原市と愛甲郡愛川町の農業者を主体に、行政（相模原市・愛川町）や民間企業が構成員となっている。

- **一般社団法人 次代の農と食をつくる会**

  さがみサステナブルコミュニティの代表である農業者が代表理事を務める法人。国のオーガニックビジネス拡大支援事業（オーガニックプロデューサー派遣）などの実績がある。

有機農業など化学農薬や化学肥料に頼らずに取り組む農業者を紹介します

ページ番号1024516　最終更新日 令和3年12月17日

印刷　大きな文字で印刷

市内には化学合成農薬や化学合成肥料に頼らずに農作物を作っている方々がいらっしゃいます。
自然に備わる土や生き物の力を生かして行う農作物の栽培については、様々な考え方、方法、組み合わせがあり、この場においては紙面が限られるため、それぞれが取り組む内容をつまびらかにお伝えすることはできませんが、少しでも皆様に知っていただければと思います。

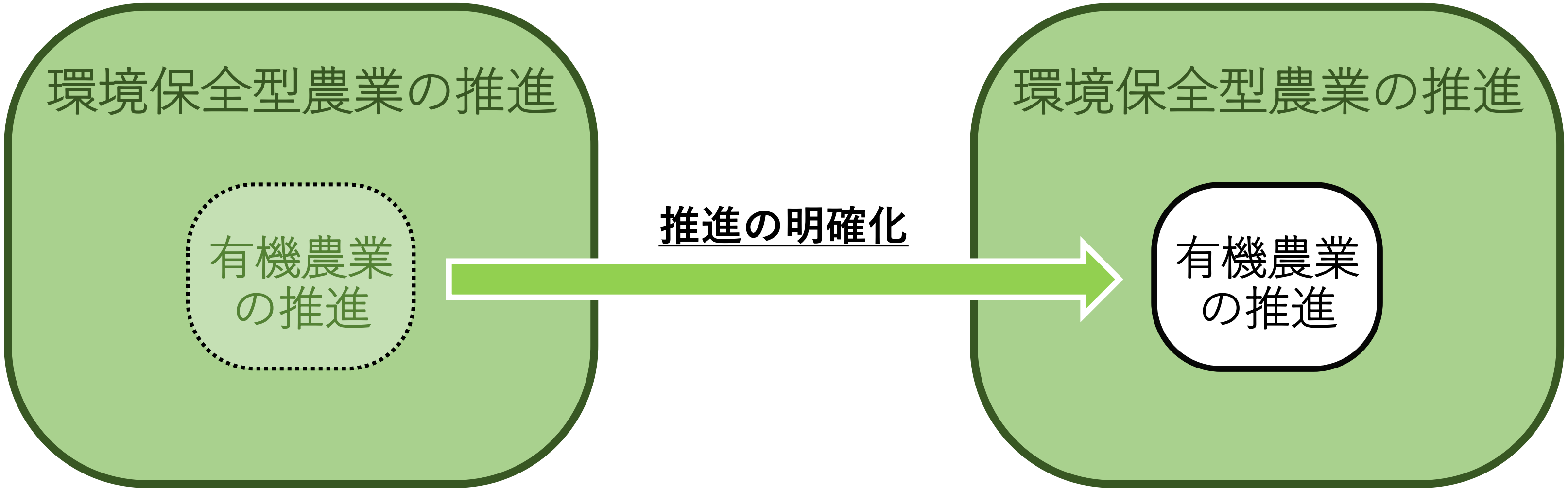
取り組む方一覧

屋号・農家名	取組み	主な営農地域	主な作物	こだわり	作物が買える場所
石井農園	環境配慮	緑区（佐野川）	いちじく（9月中旬～11月中旬）	佐野川ブランドを大事にしたい。お年寄りにもできる農業にしていきたい。	スーパーまつば、クックパッドマートなど
よしみ農園(吉見 敦司)	有機農業（一	緑区（青野原、青根、根小	トマト、人参、ほうれん草、かぶなど	厳選した有機肥料とミネラル肥料を使って、作物が健康であることを大事にしています。	こだわりや、ヤオコー、ユーコープ、ヴェルジェ、鳥居原ふれあいの館など

きっかけ・背景②

- **有機農業の推進の明確化**

本市では、「農業振興」や「環境保全」の取組の一環として、環境保全型農業の推進に取り組んできたが、有機農業を推進することを明確化した。



環境保全型農業とは

農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留意しつつ、土づくり等を通じて化学肥料、農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続的な農業のこと。有機農業や自然農法などが含まれる。

令和５年６月１３日
オーガニックビレッジ宣言

- **オーガニックビレッジ宣言**

相模原市は、人口７２万人の大消費地でありながら、都市の利便性と豊かな自然を兼ね備えた「都市と自然のベストミックス」の魅力が輝くまちです。

本市の農業は、小規模・少量多品目栽培といった「都市型農業」を特徴としておりますが、農薬・化学肥料に頼らず、環境負荷を低減した農業生産への取組が生まれています。

国の「みどりの食料システム戦略」を踏まえ、本市においても地域ぐるみでの有機農業に対する理解の促進や、有機栽培技術の向上、共有化を図るなど、有機農業に取り組みやすい環境を整えてまいります。

有機農業や慣行農法といった違いに関わらず、お互いの農法を理解・尊重することで、農業者や関係事業者、地域が一体となって取り組む有機農業の仕組みづくりを目指し、相模原市有機農業実施計画に基づき、「オーガニックビレッジ」の取組を進めてまいります。

令和５年６月１３日　相模原市長 本村 賢太郎